「ただいま」「おかえり」と言い合えるまちに！

3 すべての人に健康と福祉を

シトラスリボンに願いを込めて

シトラスリボンプロジェクトとは、コロナ禍で生まれた偏見、差別を耳にした愛媛県の有志がつくったプロジェクトです。シトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。リボンの３つの輪は、「地域」「家庭」「職場・学校」を表しています。

日野小学校の児童は、市立西脇病院に応援メッセージを送りました。掲示されたメッセージを見たある職員は、感謝の手紙を学校に届けました。

「『疲れた～』と更衣室に向かっていると、ふと目に入りました。心地よい緑色とかわいい手にとても癒されました。」と書かれていました。

日野小学校の児童からの
応援メッセージ

2021 年 12 月末時点で、全世界で２億 8000 万人が感染し、540 万人が亡くなるという新型コロナウイルスによる未曾有の危機に人類は直面しました。この２年間、西脇市民が新型コロナウイルスとどう向き合い、どう乗り越えようとしてきたのか、西脇市人権教育推進委員５名が西脇多可医師会 藤田 位医師と見つめました。

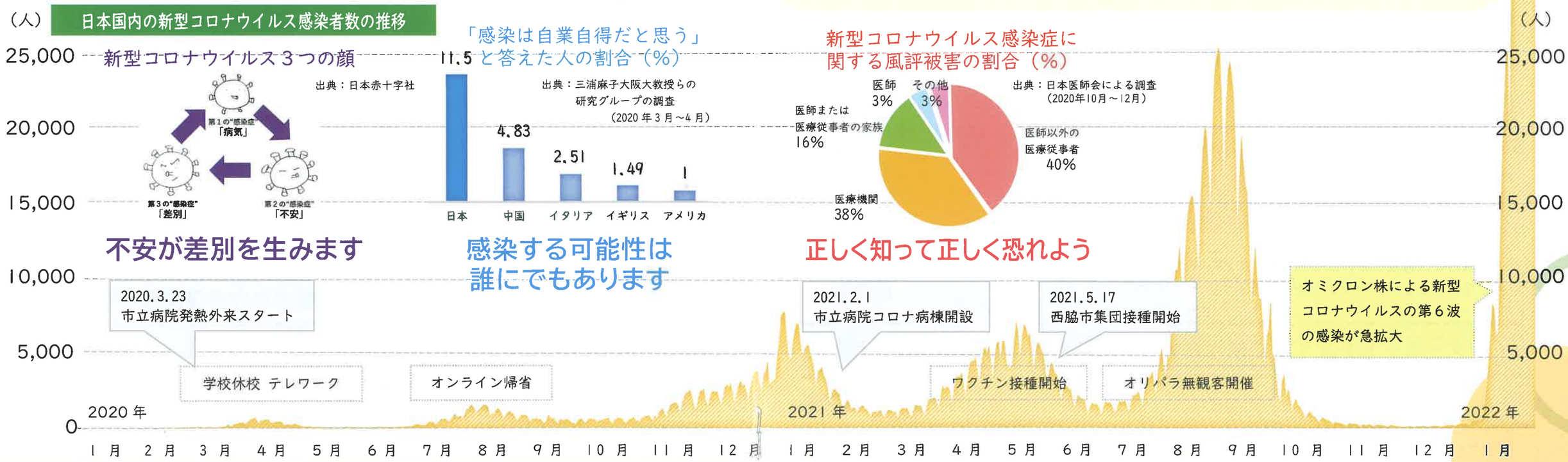
市立西脇病院　岩井 正秀院長から病院職員へのメッセージ　2021.8.23

このウイルスは、その狡猾で邪悪な面をますます強めてきました。社会的に人間同士を分断するだけでなく、さらに家族間にも距離を置かせてつながりを希薄にさせようと画策しているかのように思われます。だからと言って、私たちはそのような罠に落ちるわけにはいきません。（中略）

メーテルリンクに言われるまでもなく、「幸福の青い鳥」は常に家庭の中にいます。そして、今やウイルスはその大切な家庭を標的にしています。様々な不安は付きまといますが、私たち医療に携わる者は、自身の家庭のみではなく、常に他の多くの家庭の幸福のことも考えなくてはなりません。そういう意識をもってウイルスに立ち向かうことが、社会を守り、その結果として私たち自身の家庭の幸福をも守ることになるのです。まだまだ不透明で混沌とした世界ですが、ワクチンや治療薬など少しずつ光も射してきました。そして、いつの日か、すべての家庭で「青い鳥」の歌声を楽しむことができることをめざして、もうしばらく皆さんとともに戦っていきたいと願う晩夏の一日であります。

「新型コロナウイルスと戦う皆さんへ⑥」より一部抜粋

日本国内の新型コロナウイルス感染者数の推移



新型コロナウイルス患者さんの声

まさか自分がコロナに感染するとは思ってもいなかったので、本当にびっくりしました。自宅待機後、市立西脇病院に入院できましたが、色々な意味で「もう家に戻って来られないかも…」と思いました。

10 日あまりの入院中、あまりのしんどさに何も覚えていないのですが、退院が決まったときに、看護師さんが涙ながらに喜んでくださったので、「私は重症患者だったんだな」と改めて思いました。そんな中、本当に家に帰れるか不安でした。他市に住む子どもが「私のところに来たら」と言ってくれましたが、勤務先のみなさんが「お母さんが帰ってくれるのを待っているから」と言ってくださっていると娘から聞いて、本当にありがたく、自宅に戻り、職場に復帰することになりました。

西脇市においては、新型コロナウイルスに感染された方はもちろんのこと、治療に当たられた医療従事者、そして、エッセンシャルワーカーとして円滑な社会運営に当たられた方々への温かい励ましや支援の行動が、子どもたちから大人まで市内各所で活発に見られていた事実を、私たち人権教育推進委員は知りました。

西脇市民の人権意識の高さを実感するとともに、こうした取組の継続が新型コロナを克服する原動力になると確信しました。